

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100832		
法人名	特定非営利活動法人友愛ホーム		
事業所名	グループホーム手鞠		
所在地	沼津市西島町19-64		
自己評価作成日	令和 4年 2月 10日	評価結果市町村受理日	令和 4年 7月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和 4年 2月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ファースト(利用者の思いを)大切にしている。 ・毎週の生演奏音楽会、書道教室等レクリエーションが充実している。 ・手作りの食事とおやつ、魚・肉料理が交互になる様、栄養面・バランスを考えている ・利用者様お一人お一人と過ごす時間がある。 ・日々の生活の中での作業(台所、洗濯等)として、役割分担・生活動作の訓練。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所建物内にデイサービス、シルバーサービスを併設しており、法人運営理念として「認め合い 支え合い 感謝と笑顔」を掲げている。医療・食事・行事等において密に連携し、常に支え合いながら過ごしている。職員は利用者を人生のお手本として、今どうすべきか勉強させていただき姿勢で敬いの気持ちを持って接している。利用者の思いや意向の把握が支援やケアにおける核となることから、毎月の全体ミーティングに利用者全員が参加して個々の思いや希望等を自由に発言している。感染症対策委員会においてコロナ感染症発生時の「業務継続計画」を策定し、職員への周知と確認を徹底させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認め合い、支え合い、感謝と笑顔」を運営理念とし、研修にも取り入れ、組織の目的・価値観、指針・指導原理として実践。	年度末に研修を実施し、法人全体で共通理解を図っている。法人内のみならず、家族や地域と支え合い、利用者の癖や思考を受け止め、笑顔で「ありがとう」等の感謝の気持ちを伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流という面では難しさもあるが、回覧板も回して頂き、地域の行事(避難訓練等)の情報を常に確認、出来るだけ参加・協力している。	地域包括支援センターとのコラボによる認知症カフェ(オレンジカフェ)等、対外的な行事は中止している。看護学校実習生の受け入れは、リモート講義に変更して実施している。地区不燃ごみ当番について現状確認を行い、参加の意向を示していく。	対外的な地域交流が困難な状況にあるが、自治会回覧板等を活用した地域貢献として、グループホームの特徴や介護・ケアに関する情報提供等の実現が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議には近所の方々に出席を依頼。 ・地域の会議にも出席し、地域の介護課題についても話し合う機会もある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議において、活動報告を行い、挙げられた意見に対しては、情報共有を行い、ミーティング等で話し合い、改善に繋げていく。 ・中止の際は、意見記入用紙と返信用封筒を同封している。	年6回の開催を継続しているが、今年度2回目以降は市担当課及び地域包括支援センターに書面で報告している。今後は家族全員に議事録を配布し、職員全員に議事内容を伝達して情報を共有していく。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市の担当職員に運営推進会議の出席を依頼し。 ・月に一度、市の訪問調査員の受け入れ。 ・地域包括支援センターが近所の為、何かあれば、声掛けをしている。	運営推進会議の議事録は市長寿福祉課及び地域包括支援センターに持ち込み、関係性の継続に努めている。地域包括支援センターとの交流により、有益な情報収集ができています。市グループホーム連絡会に参加し、現在はメールで情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止に関する指針を作成、掲示、研修に組み入れている。 ・基本、入ロアは開放し、利用者様が自由に入り出来る。	9月に「スピーチロック・身体拘束について」の研修を実施し、スピーチロックによる弊害や身体拘束に対する基本方針・対応・対策を学んでいる。3か月毎の身体拘束委員会において、肯定的な言葉遣いを意識する事などを繰り返し意識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止のための指針を作成、掲示し、研修に組み入れている。 ・身体拘束・虐待防止委員会を設置し、利用者の権利擁護の取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様に実子がない方が、成年後見人制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族様に十分説明を行っている。不明な点はないかお聞きし安心・納得していただけるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の折、また中止の際は返信用ご意見書を送付し、意見・要望を伺っている。 ・面会時には必ずお声を掛けさせていただき近況報告をし、意見をいただいている。 ・意見箱も設置している。 	前回ステップであった意見箱を復活させ、真摯に受入れる姿勢を見える化している。コロナ禍においても利用者と家族とのふれあいを重視した面会体制を実施している。家族アンケートの回答より、職員が家族の不安解消に努め要望等を良く聞いている事が確認できた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のミーティングにおいて、職員からの意見を聞く話し合いの場を設けている。 ・年2回職員アンケートを実施。代表が確認し、話し合いの場を設けている。 	昼に職員同士で午後のレクリエーションの段取りを確認し合ったり、代表がいる時間には自然と話し合いの場となる等、職員間の協力体制は良好である。個人的な件は職員から代表に直接相談があり、迅速に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のミーティングは代表も参加しており、現場の意見を聞く機会を作っている。 ・年2回職員アンケートを実施。代表が確認し、話し合いの場を設けている。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のペースで施設内研修を行っている。 ・職員の資格取得にも積極的に取り組んでいる。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム沼津市の会議への参加を通して、他の施設のスタッフとの交流・意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様と面会し、総合的な情報を得ることで入所後の不安をなるべく解消できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前にご家族様と面会し、状況や不安な点等細かなところまで情報を得る。 ・入居契約時にもサービスについても改めて説明を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様・ご家族様と面会し、情報を得て、またご希望を伺いながら、それもとにスタッフ間で意見交換し、サービスの見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・理念にもあるが、利用者様と職員は支え合う関係としている。 ・業務優先ではなく、利用者様と共に行い、同じ時間を過ごすよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況変化等は、ご家族様に報告説明し、問題と解決策を共有することにより共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・住み慣れた場所や生まれ育って過ごされた思い出の場所の話を伺ったり、場合によってはその場所を訪ねる機会を作っている。ご本人のご希望で墓参り、他施設への訪問も付き添う。 ・コロナ禍でも面会は柔軟に対応している。	コロナ禍により面会を遠慮する家族もあるが、「遠慮せずに来て下さい」と伝え、できる限りふれあう面会となるように支援している。利用者にとってメリットのある希望であれば、リスクを検討したうえで実現を目指す方針である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビング自席、自室の位置に配慮。共同で何かを行う際には全員に声を掛け、ご希望を伺う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後にも、ご家族様からお手紙を頂く事もある。 ご高齢になり介護サービスを検討されている場合等にもご連絡頂く事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ミーティング時に利用者全員に話を聞く時間を設けている ・利用者写真に思いを職員が書き込み、日々の介護に活用している。 ・入所時に生活年表を書いて頂き、それに沿ったケアが行えるように努めている。	毎月の全体ミーティングには利用者と職員が全員参加しており、利用者全員から思い思いの発言がある。行きたい所、やりたい事、楽しい事、食べたい物、嫌な事、痛い所、つらい事など、その時の思いを職員全員で聞き取り、直ぐに日常生活に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時に生活年表を書いて頂いている。 ・利用者・ご家族様の情報から実践し希望に添える様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録を記入し、職員間で申し送りを行い情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は日常的にモニタリングを積み重ねている。ミーティング時に利用者にもお話しをして頂き、意見をまとめ、医師や看護師に相談しながら家族にも報告して介護計画を立てている。	短期目標期限に合わせて再アセスメントを行っている。モニタリング実施表には達成度をチェックするだけでなく、できなかった時の理由や今後の方向性などの記載により職員全員の共通理解が図られている。見直し期間は短期半年、長期1年を基本とするが、変化に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子を生活記録に記入し、職員間で申し送りを行い情報を共有。 ・小さい変化であれば現場対応、大きな変化がある際は計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・コロナ禍ではあるが対策を行い、面会は柔軟に対応している。 ・ご本人ご家族の変化、要望に応じて、施設の移動等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理解が難しくなっている方が多いが、職員がその把握(オレンジカフェ等)を行い、豊かな生活が出来る様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・施設の提携医院を主治医とし往診に来てもらっている。必要な時には専門医の紹介、検査などに付添い、適切な医療を受けられるよう努めている。 ・日中は看護師が体調変化、怪我等に対応する。	2つの医院を協力医としており、利用者全員がどちらかをかかりつけ医としている。月2回または月1回の訪問診療となるが、体調や症状に応じて随時往診に来てくれている。法人内の兼任看護師2人による体調管理もあり、医療連携ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・施設内看護師に必要に応じて相談、情報共有、対応を依頼する。 ・提携医院担当看護師にも必要時には助言・指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医院派遣元が総合病院であり、入院時等の情報共有、連携は十分に務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を策定、研修にも取り組んでいる。 ・ご家族と共に、職員、医療が最後まで寄り添う支援を行っている。	今年度は2人の看取り支援を行い、1月に法人の終末期対応方法について研修を実施している。よく話を聞いてくれるかかりつけ医で、法人の方針を理解しながら利用者家族の意思を最優先に考えてくれている。マニュアルはあくまでも基本で、その時の状況により対応を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、事故時の対応の研修を行っている。またマニュアルをすぐに確認できる位置においてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・災害別の定期訓練を行っている。 ・備蓄品・飲料生活用水の確保。 ・地域の避難訓練には参加し町内の方々にホームがある事を知ってもらい協力をお願いしている	ハザードマップで津波避難訓練対象地区となっており、年2回の訓練を定例としている。今年度はボートの使用方法を学び、年度末に夜間想定を含めた防災訓練を予定している。前回ステップであった消防署との確認を済ませ、蓄電池と生活用水の保管も実行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇研修を行っている。 ・肯定的な言葉かけ、ひとりひとり話し方、呼びかけ方を変えている。 	法人理念「認め合い 支え合い 感謝と笑顔」には尊重の思いが詰まっており、敬う気持ちを表情や言葉で伝えるように努めている。代表は現場で様々な手本を示し、職員間の共通理解とスキルアップに繋がりたいと考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の会話を大切にし、思いをすくい上げられる様努力している。 ・月一度ミーティング時、食べたいもの、行きたい所をお聞きしている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ファーストを基本として介助を行っている。 ・それぞれのペースで日々毎日過ごしていただいている。危険の無い限り、ご自由に過ごして頂いている。何かを強制したり、急がせる事しない。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・着替えの際は、本人に服を選んで頂いている ・月1回ずつ、理容室・美容室が訪問 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日は利用者様の好みの献立を伺い、一緒に調理をしている。 ・準備時、食後には役割分担し、職員とともにやっている。 	調理専門職員が法人全体の食事を手作りしている。食欲が出るようなメニューに拘り、みそ汁は昆布で出汁を取っている。当日昼には食欲をそそる醤油ベースの匂いがフロア全体に漂い、お互いにお茶を注ぎ合う利用者の微笑ましい姿があった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事摂取量や、水分量は毎日チェックし、記録。 ・お好みのものがあれば、それをお出しする 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず全員に声を掛け、口腔ケアを行っている。ご本人の状況に応じ、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェックを行い、個々に応じてトイレ誘導を行っている。 ・危険の無い限り、トイレ内ではご自身で対応してもらっている。	尿意便意がしっかりあっても間に合わなくて失禁してしまうなど、高齢化に伴う自立度の低下がみられている。職員は利用者個々の排泄パターン等でタイミングを図り、失禁予防に努めている。汚染時の対応は羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排便のチェックをしている。 ・水分・体操等で自然排便が出来るよう支援しているが状況に応じ、ナース、医師に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴日・入浴時間を決めているが、無理強いはせず、状況に応じ、柔軟に対応している。 ・基本的には、皆様入浴がお好きで楽しい時間になっている。	利用者全員が週2回入浴しており、お湯は一人ずつ入れ替えている。湯温管理を給湯器任せにせず、湯温計で適温にしている。11月の研修では、冬季に多発する入浴事故をヒートショックの観点から学んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・寝具は以前より使っていたものを使用。 ・生活パターンを把握し、個々の習慣に応じて対応。 ・昼夜逆転にならない様には、注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬剤情報をすぐに確認出来るように配置。 ・居宅療養管理指導の契約があるので、薬剤師にすぐに相談出来る体制が整っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日々の作業(食事の配膳、洗濯干等)必ず声を掛け、行ってもらっている。 ・多くのレクリエーションを行っているが、好きな様に参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナ禍で難しい面もあるが、ご本人のご希望を伺いながら、散歩・ドライブ・外食を支援 ・現状に応じて、ホームの行事にはご家族様や地域の方々にも参加していただいている。	利用者から行きたい場所等の発言があり、その日のうちにドライブに出かけている。可能なことは後回しにせず、積極的に行っている。暖かい時間帯には、玄関入口横に並べられたカラフルベンチで日光浴をしている。希望があれば、家族との外出や自宅への外泊も前向きに検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務で預かり金を管理、その範囲内で好きなものを選んで購入している。 現状はお金を所持、使う方が難しい方が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご希望があればその都度に応じている。 ・ご家族から手紙が届いた際には、お返事を書く様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節の花を飾り、大きいカレンダーを掲示。室温にも注意し、エアコンの風除けも設置。 ・共有トイレ、浴室は十分な大きさを確保している。 ・居室にこもりっぽくならないように声掛けし、レク等行方がお好きに参加して頂いている	玄関内に生花を飾り、熱帯魚の水槽が置かれている。居間には利用者直筆の書道作品が貼られ、春の制作物は現在準備中である。居間で洗濯物を畳んだり、脳トレのボードゲーム等を行っている。週2回の音楽会と書道教室を開催し、法人全体で屋台ラーメン会や餅つき大会等も実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者同士で話しが出来たり、お一人で好きな事ををしたりと過ごせるよう、リビング席の配置に気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室にも昔から使っていたタンスやテレビなどを配置し、趣味のものもおいてある。 ・茶碗、箸等は個々のものを使用してもらっている。	居室で昼寝をする人もいるが、利用者のほとんどが日中を居間で過ごしている。清掃や換気は不在時に行い、布団は毎日交代で天日干ししている。車椅子を使う利用者に対し、一方的に決めつけずに朝起きた時の状態で使うかどうかを本人に確認している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物自体安全に配慮した設計、どこでも自由に移動して頂いている。また動線には障害物を置かない。		